

大門さん  
活動紹介  
シリーズ③

## マイナンバーの危険、いち早く追及

日本に住民票を持つ人すべてに12ケタの番号をつけ、国が個人情報を管理するマイナンバーが1月から本格的に始まりました。番号を通知されていない人が全国で300万人にも及ぶなど問題山積。国民の不安を置き去りに、カードの普及や利用拡大ばかり進めることは、国民のプライバシーを危険にさらすものです。大門さんは昨年の国会で利用開始は中止せよと、いち早く追及しました。

### 国会で 「サイバー攻撃から絶対安全はない」

現在、年金や税金、住民票などの個人情報は公的機関ごとにそれぞれ管理されていますが、マイナンバーで各情報を一本に結び付けることが可能になります。マイナンバーの情報がひとたび外部に漏れれば、個人のプライバシー侵害の危険は飛躍的に高まります。その現実的危険が示されたのが昨年の日本年金機構の年金情報流出。

大門さんは「どんなセキュリティ(安全)システムを構築しても、情報を盗もうとするサイバー攻撃から絶対に安全とは言い切れないことが示された」と指摘。マイナンバー制度の番号通知、利用開始を中止するよう求めました。(15年6月2日、連合審査—内閣・財政金融委員会)

### 強権的税務調査が横行する恐れ

大門さんは、マイナンバーが預貯金口座にまで拡大されることで強権的な税務調査が横行しかねないと追及しました。この中で、国税庁が任意調査をする際、マイナンバーを使って金融機関から預貯金情報を引き出す危険性を指摘。マイナンバー拡大法案では、事業者の「協力義務」まで加えられているとして、「金融機関は今まで以上に税務署からの(情報提供)依頼を断れなくなる」「(法案には)納税者の権利擁護や金融機関の守秘義務の議論が全くない」と批判しました。(同)

近畿で

## 学習会は大盛況



大門さんのマイナンバー制度学習会は大盛況。京都の学習会は参加者があふれ、会場を変更せざるを得ないほどでした(写真は和歌山での学習会=9月29日)。

### 参院選勝利近畿ブロックニュース

TEL06(6975)9111 FAX06(6975)9115

比例予定候補・大門さん特集⑤ 2016. 2. 13

## 大門さん 病気から完全復帰へ

大門さんは、体調不良のため年初から国会活動、参院選予定候補の活動を休止。1月下旬、肝臓腫瘍治療のため東京都内の病院で手術を受けていましたが、経過も順調で、完全復帰の見通しになりました。12日、小池晃党政策委員長が記者会見し、次のように報告しました。

「(腫瘍が)極めて早期の段階で発見されたので転移もなく、1センチ程度の腫瘍を完全に取りきることができた。現在も入院中だが経過は順調で、国会議員活動には完全復帰できる見通しだ。今夏の参院選の比例候補としての活動も今後再開する予定だ」

\*裏面に病気について的大门さんのフェイスブックへの投稿を掲載

## 〈 がんがくれた贈り物 〉

ご無沙汰しております。

本日のしんぶん赤旗に記載のとおり、1月末に都内の病院で肝臓腫瘍を切除する手術を行いました。さいわい、きわめて早期の発見だったため、転移もなく、1センチ程度の腫瘍(がん)は完全に切り切ることができました。

現在も入院中ですが、経過は順調で、春頃には国会議員活動、参院選候補者活動に完全復帰できる見通しです。

ただ、もうしばらく大事な国会を休まざるをえないこと、また近畿をはじめ各地のつどいにかがえないことを心からお詫び申し上げます。

同時に、ご心配をおかけした皆さま、フォローして頂いた先輩、同僚議員、近畿ブロック、各府県の関係者の皆さまに御礼を申し上げます。本当に有り難うございました。

＊

昨年10月、風邪をこじらせて急性肺炎で入院したとき、肝機能に異常な数値が表れました。今まで健康診断でも肝臓はきわめて健全な数値ばかりでしたので、びっくりしました。

担当のS先生から「念のため専門機関で精密検査を受けるように」と言われました。その検査結果の画像を見てS先生が驚き、肝臓手術の世界的権威であるM先生を紹介してくださいました。

12月15日、M先生はわたしの画像を見て「これほど初期の段階で発見できたのは奇跡。あんた、運がいいよ」とおっしゃいました。手術のためにすぐにM先生の病院に入院するよう指示され、年明けの1月4日から入院しました。

肝臓で作られる消化液である胆汁の通り道を胆管といいます。具体的にはその胆管に1センチほどのがんがあったのです。難しいがんで、自覚症状がないため早期に発見されることはまれで、自覚症状が出たときはもう手遅れの場合が多いそうです。

わたしの場合も、肺炎にならず発見されずに時が過ぎていたら、予後はあと1～2年だったとのことでした。

今までの人生は、病や死について真剣に考えたこともなく、ただ前を向いてたただかうだけの人生でした。

切除したとはいえ、がんと告知されてからのこの2ヶ月は、命と時間の大切さ、人の温情のありがたみを深く心に刻む貴重な時間となりました。がんがくれた贈り物だと思っています。